

# 稲作だより

第4号 育苗・圃場準備編  
令和8年4月21日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部 最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1330

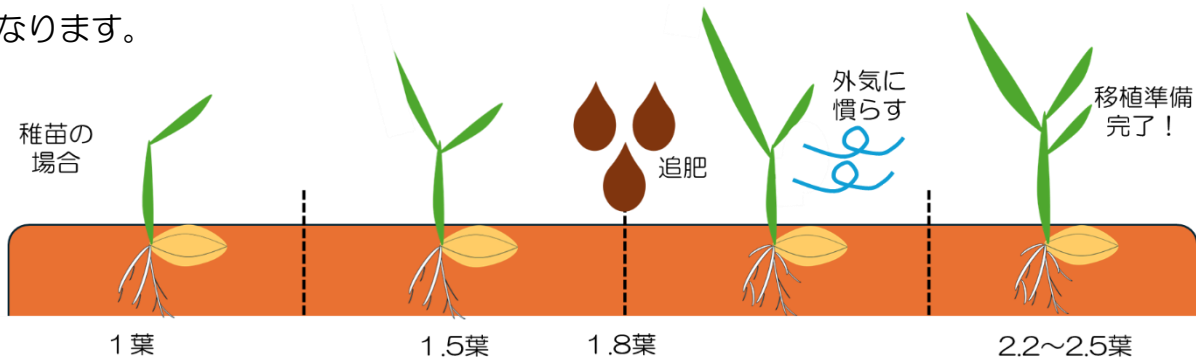
気象の変化に十分注意して、健苗を育成し、適期移植に備えましょう！

## ※お天気ニュース※

天気は数日の周期で変化しますが、4/18～5/1の平均気温は**高い見込み**です。また、5/2～5/15の平均気温は平年並みか**高い見込み**です。温度変化に対応した管理をしましょう。  
(4/16 気象庁発表)

## ◎育苗管理 ～健苗とは太くて硬く、ずんぐりした苗のこと～

- ・緑化期以降の適温は、日中20～25℃、夜間8℃以上です。温度計をハウス内や育苗箱の近くに設置してこまめに確認しましょう。また、田植1週間前からは移植に備えて夜間もハウスのサイドを開けて外気に慣らしましょう。
- ・かん水は午前中の早い時間にたっぷり行いましょう。夕方や低温時は過湿・カビの原因になります。



## ◎追肥 ～生育に合わせて適期適量の追肥を～

- ・追肥は窒素成分で**1g/箱**を目安としましょう。
- ・床土に緩効性肥料（育苗一発肥料など）を使用したら追肥は不要です。

苗の種類（移植時葉齢）	追肥時期
高密度播種苗（2.0葉）	移植3日前
稚苗（2.2～2.5葉）	1.8葉期
中苗（3.2～3.5葉）	1回目：2.0葉期
	2回目：3.0葉期

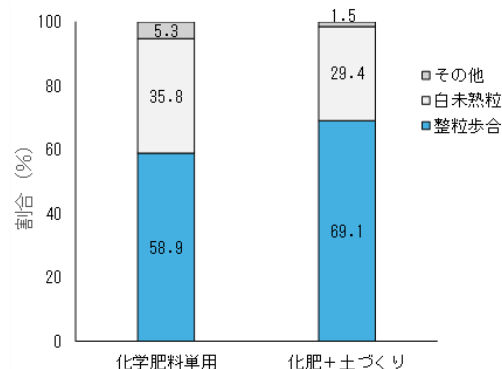
## ◎病害対策 ～高温・低温・過湿に注意！～

- ・育苗中に発生した菌は分類によって防除方法が異なります。下表から注意しましょう。

原因菌・細菌	外観・症状	原因	注意点
リゾプス属菌	床土表面に白色のカビ	出芽期の高温過湿	高温（32℃以上）・過湿にしない
トリコデルマ属菌	床土表面に青緑色のカビ	育苗土の水分不足、低pH	播種時のかん水量、土壌pH調整
フザリウム属菌	籾周辺に淡紅色のカビ	出芽期～硬化期までの低温	低温（10℃以下）・過湿にしない
ピシウム属菌	2葉期頃に葉が急に萎凋	低温過湿	
苗立枯細菌	第2葉の葉身基部が白化	高温過湿	高温（32℃以上）・過湿にしない
ばか苗病菌	茎が細く、葉身が淡く徒長	出芽期が26℃前後の適温	催芽・出芽は30～32℃で行う

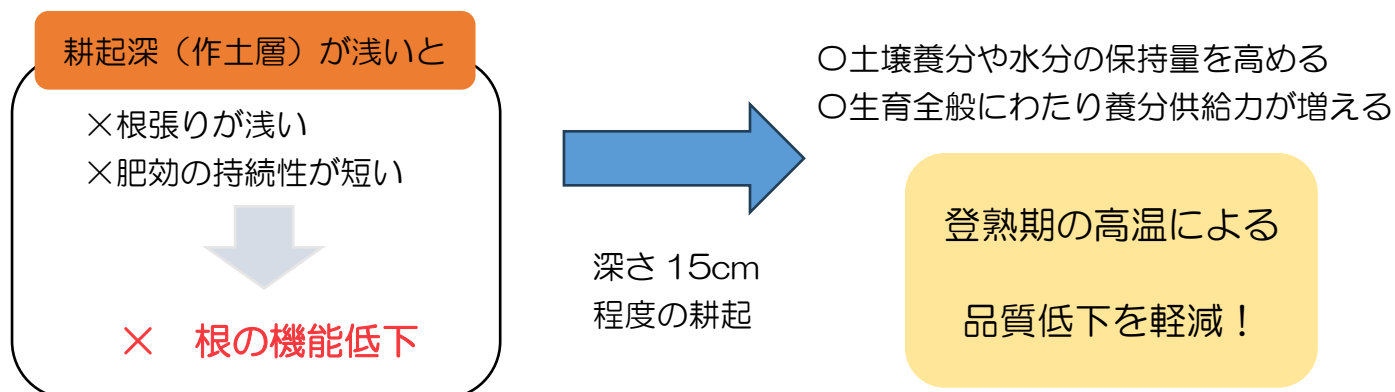
## ◎土づくり肥料 ～稲を支える土台づくり～

- 近年、土づくり肥料の施用量が不足しており、土壤中から供給されるケイ酸量が減少しています。ケイ酸は光合成量を増やし、根の活力を向上し、籾数の増加、登熟歩合、千粒重の向上効果があります。
- また、R5のような高温年次に、熔りん 30kg/10a、ケイカル 150kg/10a を連年施用した圃場では、白未熟粒の発生を抑える効果が確認されています（右図）。積極的な活用で品質向上につなげましょう。



高温年次における土づくり肥料連用の品質向上効果（山形農総研セ、はえぬぎ、R5）

## ◎耕起 ～耕起の深さで根域を確保～



## ◎基肥 ～地力・品種に対応した施肥を～

<地力・品種別の基肥量目安>

(単位：窒素成分kg/10a)

地力	つや姫	雪若丸	はえぬぎ	ひとめぼれ	あきたこまち	ヒメノモチ
高	3.0	4.0	4.0~5.0	4.0	5.0	5.0
中	4.0	5.0	5.0~6.0	4.5~5.0		
低	4.0~5.0	5.0~6.0				

- 上表を目安に、適量の施肥を行いましょ。
- 初期生育が確保しにくい地域や、玄米粗タンパク質含有率が高まりやすい地域では耕起後の施肥や側条施肥を行いましょ。
- 過剰な施肥は倒伏の恐れがあり、登熟不良や収量の減収を引き起こす可能性があるため、施肥量の過多に注意しましょ。
- 「つや姫」は玄米粗タンパク質含有率に上限があります。施肥量の過多に注意しましょ。

# STOP! 農作業事故

～春季事故防止運動強化期間～ 4月1日～6月10日

今年になってすでに3件発生しています！（4月時点）

農業機械の運転や高所作業は万全の安全対策に努めましょ！